



## 自分の思いや考えを論理的に表現できる学習指導の工夫

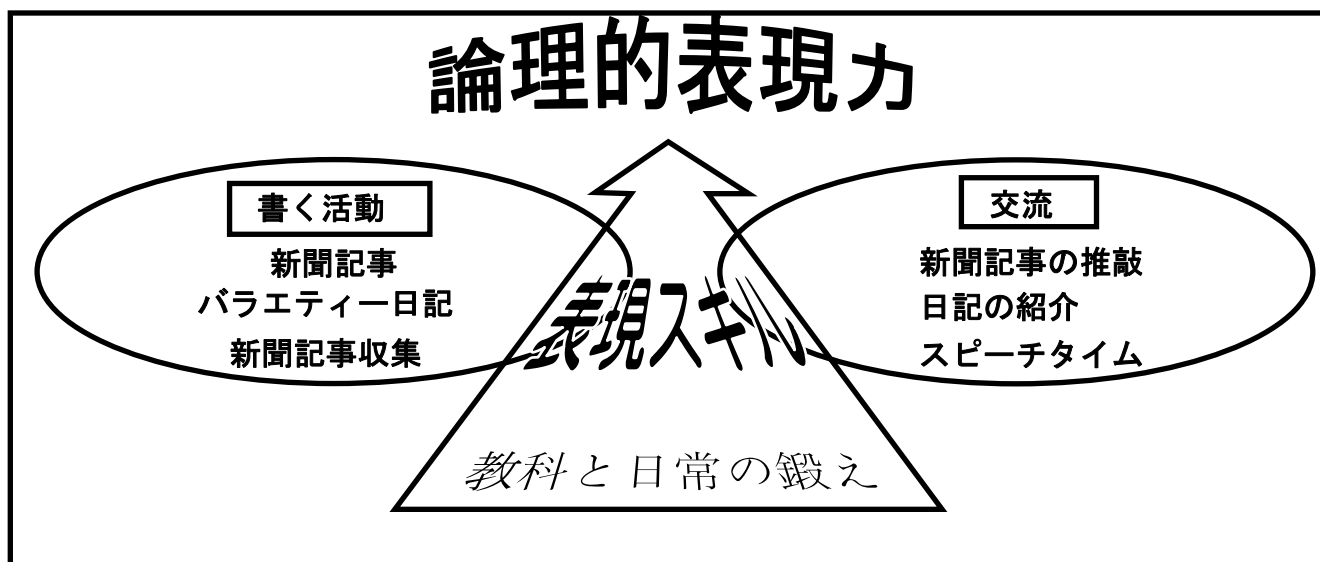
～書く活動と交流を取り入れた学級新聞作りを通して～

南城市立大里北小学校教諭 尾崎 優子

### 1 研究テーマについて

「言葉はコミュニケーションの礎」となるものであり、人は言葉で考えたり、思いや気持ちを言葉で伝えたりする中で日々生活している。ところが児童の実態は、友達との関わりが苦手で自分の思いや考えを適切な言葉で表現することができない。また、教師も論理的な表現を獲得させたいが、具体的な指導が生み出せずにいるのが現状である。そこで論理的表現力を高めるために、「書く活動」の表現スキルと「交流」を取り入れた学習指導を行い、授業の工夫・改善を図る。

### 2 研究の特徴



### 3 研究の実際



書く活動



自信を持って  
思いや考えをうまく  
表現することが  
できるようになりたいな



交流

### 4 研究の成果

- ① 伝えたいことを意識した「書く活動」表現スキルの習得・活用を図ることで児童に書く方法を身に付けさせることができた。論理的に表現できると児童が意欲や自信を持つようになり、書くことを楽しむようになった。
- ② 「交流」により筋道を立てて伝え合う意識が高まり、自分の思いや考えを論理的に述べるようになった。

## 自分の思いや考えを論理的に表現できる学習指導の工夫

—書く活動と交流を取り入れた学級新聞作りを通して—

南城市立大里北小学校 尾崎優子

### I テーマ設定の理由

「言葉はコミュニケーションの礎」となるものである。人は言葉で考えたり、思いや気持ちを相手に伝えたりする中で、日々生活している。今日、我が国も知識基盤社会・グローバル化の時代であり、競争が激しい社会である。その中で生きる子ども達にとって、人間関係力や社会性がとても大切であり、家庭や地域社会において、集団社会体験や人間関係体験を行うことの重要性が改めて叫ばれている。

しかし核家族化・少子化・地域教育力の低下等、社会環境の変化により、それを身につける場や機会が激減し、コミュニケーション不足やお互いの関わりが苦手になってきている現状が生まれてきている。慌ただしく、競争が激しい中でも「生きる力」を育むことが重要であると学習指導要領の総説でも述べられている。学習指導要領国語科の目標には、「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」とあり、改訂の趣旨では、「特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成する」とある。今まさに言葉を通して円滑なコミュニケーションが図れる児童の育成が望まれている。

我が学級の子どもの実態も社会の問題と似ている点がある。友達との関わりが弱く、特に、全体の発表の場では自分の思いや考えを話したり、書いたりすることを恥ずかしがったり、苦手にしていたりする様子が見られる。昨年の標準学力調査の結果から、特に「書く」領域の落ち込みが大きかった。言語知識・語彙力の不足や弱さはもちろんであるが、児童自身の書くことへの興味・関心・意欲が低いのも気になっている。能力自体というより、学習習慣・規律の未定着も課題として挙げられる。

また、私自身の国語科に対する指導を振り返ってみると、いくつかの課題がある。スピーチや発表の場を多く設けるなど、話す機会を設定し、苦手意識を取り除こうと努めてきたが、場の設定だけでは一人一人の話す能力の向上にはつながらなかった。また、授業は教科書通りに進めることに精一杯で、児童の実態を常に正しく把握し、押さえるべき指導事項を明確にすることなく行ってきた。そのためきちんと能力が身につかず、定着度が低い結果となってしまっている。

「書く活動」は相手に自分の思いや考えを伝えることのできる、誰でもどこでもできる自己表現活動の一つである。そこで「書くこと」領域の学習指導において、まず、宿題や日記等、家庭と連携しながら日常的に鍛えることから指導を強めていきたい。さらに授業「学級新聞作り(教科書教材)」により、目的や方法、相手を常に意識させながら論理的な表現方法で「書く」手立てを指導していくことにしたい。それと共に、感想や意見を交流することにより自分の思いや考えを整理し、相手のことを思いやって他者に伝えられる喜びを味わわせていけば、自信を持って自分の思いや意見、考えを述べることができる子ども達になるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

国語科の「書くこと」の学習において、次のような手立てを行えば、児童一人一人が自分の思いや考えを論理的に表現する力がつくであろう。

- (1)「書くこと」の学習指導をはじめ学級新聞作りを通して、「書く活動」の表現スキルの定着・活用を図る。
- (2)「交流」を取り入れることで、自分の思いや考えが整理され、うまく伝えることにつながり意欲や自信をつけさせる。

## 2 検証計画

まず事前に国語科に関する児童の実態を調査する。方法としては、アンケート、スピーチタイムの観察、課題日記の調査を実施し、さらに昨年の標準学力調査の結果を参考にしながら教材作成をする。検証授業では「記事の推敲」「交流」の二つの観点から、記事、ワークシート、教師の観察、ICレコーダーによる交流の聞き取り等を基に分析をする。さらに事後に再度アンケートを実施し、事前調査と比較する。

以上の方法で、「書く活動」の表現スキルと交流を取り入れた学習指導の有効性を検証する。

|                                                                                                 |                                                                                     |                                                             |                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 事前調査                                                                                            | ・ 調査内容：国語科に関する実態調査<br>・ 調査方法：アンケート，スピーチタイムの観察，課題日記の調査，標準学力調査の分析<br>・ 調査時期：11 月～12 月 |                                                             |                                                                 |
| 教材作成                                                                                            | ・ 時期：11 月～12 月<br>・ 事前調査を参考に資料の収集と作成，編集                                             | ○学習指導要領，教科書等の記載内容の分析<br>○地域の特性や児童の実態を把握                     |                                                                 |
| 単元名： みんなで新聞を作ろう 12 時間 時期 1 月                                                                    |                                                                                     |                                                             |                                                                 |
| 検証場面                                                                                            |                                                                                     | 検証の観点                                                       | 検証の方法                                                           |
| 検証授業                                                                                            | ・ 記事の推敲                                                                             | 文の基本的な書き方を確認することによって分かりやすい記事に書き直すことができる。<br><b>【書くこと】</b>   | ・ 記事 ・ 観察<br>・ ワークシート<br>・ 自己評価<br>・ 授業後のアンケートの分析<br>・ IC レコーダー |
|                                                                                                 | ・ 交流                                                                                | 交流を取り入れることで、自分の思いや考えが整理でき、伝え合うことができ意欲を高めることができる。 <b>【関】</b> |                                                                 |
| 事後調査                                                                                            | ・ 調査内容：国語科に関するアンケート<br>・ 調査方法：アンケート<br>・ 調査時期：1 月後半                                 |                                                             |                                                                 |
| 検証の視点<br>「学級新聞作り」を通して「書くこと」表現スキルの定着・活用を図り、授業展開において交流を取り入れることで、児童一人一人が自分の思いや考えを論理的に表現する力がつくであろう。 |                                                                                     |                                                             |                                                                 |

## Ⅲ 研究内容

### 1 自分の思いや考えを論理的に表現できる指導について

#### (1) 論理的思考力とは

大辞泉によると「論理的」とは、「論理にかなっているさま。きちんと筋道を立てて考えるさま。」とある。つまり論理的な表現をするためには、まず意見と理由が前提にあり、そのつながりが適切であるかどうかを「考える力」が必要になってくる。考える力を思考力と呼ぶとすると、その力は新しい情報をすでに持っている情報と照らし合わせて自分の情報構造の中に取り入れたり、さらに変化させたりしていく内的過程である。その過程を経て、話したり書いたりすることで相手に伝えていく。

文部科学省の文化審議会答申(2004年)によると、学校における国語科教育では、「情緒力」「論理的思考力」「思考そのものを支えていく語彙力」の育成を重視していくことが必要であるとし、図1のようなイメージ図で発達段階に応じた国語教育の展開を示している。

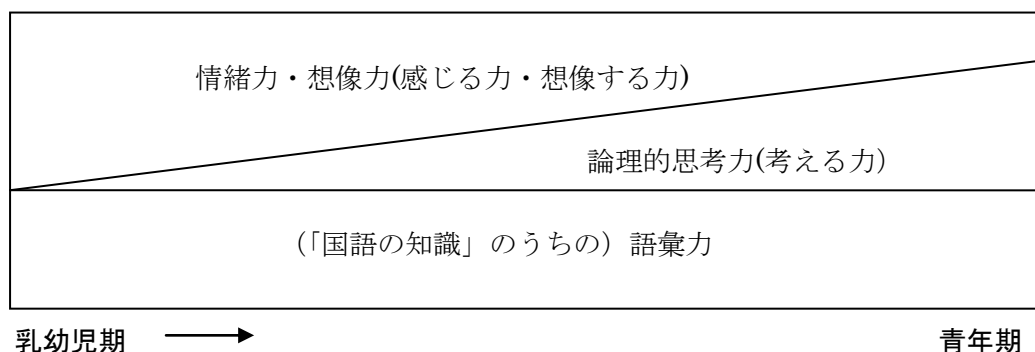


図 1 発達段階に応じた「国語科教育における重点の置き方」のイメージ図(文化審議会答申)

その中の「論理的思考力」について以下抜粋していくと、「論理的思考力の育成は、国語科が大きな役割を担うべきである。日常生活の論理は言葉の論理でもあるので、言語を通して身に付けるのが最も効果的と考えられるからである。具体的には、文章を書くことの指導や自分の考えや意見を述べる機会を多く設けることなどにより、論理的思考力を高めていくことが必要」とある。ある課題が与えられた時、自分の考えを論理的に論じることは大人でも難しいものである。自分の考えの曖昧さを修正していく方法として、「書くこと」は自分の考えを作り上げることに有効である。「書くこと」は考えを整理し、考えることそのものの鍛錬ともなる。それを繰り返し練習することで語彙を増やし、思考が広がるとともに論理的思考力を高めていくことができると思う。

言葉はでき上がった知識や情報を運ぶコミュニケーションの伝達手段であり、思考の形成に密接に関与し、感情や行動を調整する。人間は言葉があるがため、思考できるのである。故に論理的思考力の指導では、語彙力を付けさせることが重要である。

また、答申では情緒力を身に付ける重要性も述べられており、情緒力はコミュニケーションの基盤となるものであり、論理を展開する場面で相手の話をしっかりと聞く態度、相手から学ぼうとする姿勢等が学級で構築されなければならない。

このように論理的思考力を高めていくには書く活動を取り入れ、語彙力、情緒力を共に育てていく必要がある。

## (2) 国語科における論理的思考力の「三つの力」

学習指導の中で論理的思考力を育むためには、教師は具体的にどのような実践を行っていけばよいのか。福岡隆史氏は『論理的思考力を鍛える超シンプルトレーニング』で「国語力とは、論理的思考力である。論理的思考力とは、バラバラの言葉や考えを整理する(関係づける)ための力である。」と論理的思考力について次の「三つの力」に分けて定義している。

表 1 論理的思考力「三つの力」(福岡隆史氏)

|        |                |                          |
|--------|----------------|--------------------------|
| 言いかえる力 | 抽象・具体の関係を整理する力 | (A つまり B)<br>(B たとえば A)  |
| くらべる力  | 対比関係を整理する力     | (A 一方 B)<br>(A それに対して B) |
| たどる力   | 因果関係を整理する力     | (A だから B)<br>(B なぜなら A)  |

「国語科の授業を通して、子ども達に論理的思考の技術を与え、それを使いこなすための能力を育てる。」と福岡氏が述べていることを参考にしながら、教師が「三つの力」の手本を示し、真似させることで自分の思いや考えを表現するスキルを展開し、鍛えていく。

## 2 学習指導要領における「国語科の目標」及び「書くこと」の内容

### (1) 国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

### (2) 「書くこと」の各学年の目標及び内容の系統表

### (3) 第3学年及び第4学年での学級新聞作りにおける「書く力」について

第3学年及び第4学年「書くこと」における目標は、「相手や目的に応じ調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」である。「段落相互の関係などに注意して」とは、構成を意識させながら書かせるとも言い換えられる。文章構成はバラバラの言葉や考えを整理することであり、先に述べた論理的思考力が必要になる。また中学年という児童は他者への関心や仲間意識が育つ時期である。課題設定や取材の際、相手や目的を持たせるのも自分の学びを形にしたり、伝えたりすることができるようになる学年であるからだろうと考える。そこで、疑問に思ったことや身近な題材について学級新聞作りを行い、常に相手意識・目的意識を持ちながら書く力を高めていきたい。

## 3 「交流」について

### (1) 相手のよさを見つけ互いに学び合う交流について

中央教育審議会国語専門部会委員を務めた高木まさき氏が「交流」について述べていることについて、次のようにまとめた。(以下 光村図書『小学校 国語教育相談室 No75.』実りのある「交流」をめざして3頁～5頁を要約抜粋)。

- ①交流の背景には PISA の調査結果、それを受けた全国学力・学習状況調査の結果があると考えられ、日本の子どもたちは、自分の考えを書くことが苦手であるという傾向がはっきりしてきた。
- ②書いたら読み合う、読んだら考えを伝え合うという経験を重ねることで、「自分の考えをもつ」ということが身につく。
- ③一人では気づけなかったことに気づく、友達の新たな一面を知る。そう考えると、同じ教室で違った価値観、ものの見方・考え方をもつ子どもたちが、それぞれの考えを交流するのは、大きな意味があるように思える。

学習指導要領解説には、中学年で「推敲して書き終えた文章だけではなく、学習計画や、取材、構成の段階のメモなど書くことの学習過程についても発表し合うように工夫する。」とある。

これは、作文の作成過程の中で積極的に他者との交流をさせるというものである。記述をする前に、集めた材料をどう並べるか友達と話し合って考える活動である。つまり、論理的であるためには、相手の思考の流れに沿って伝える必要があり、そこでは相手との「対話」が不可欠であるということ。そして相手に応じて、伝え方の型を工夫するということである。

今回授業を実践する「みんなで新聞を作ろう」の中でも、学習過程の途中や最後に交流の場を意図的に設けた。相手のよさを認めつつ、よりよい表現を共に考え、お互い高め合えるような児童の姿を目指したい。

### (2) 「交流」を活性化する工夫

自分の思いや考えを分かりやすく相手に伝えること、或いは相手の気持ちをしっかりと受け止め、理解することは、コミュニケーションをスムーズにする上でとても大切な力になると考える。さらに交流をうまく進めていけるよう、「交流」の工夫について『「確かな学力の向上」支援プラン』を参考に、話し合い(交流)の話形ヒントを作成した。

交流活動の基本となる話し合いの仕方を指導する場合には、自分とのかかわりで聞きながら発言するための内容を整理させるようにする。前に発言した人とこれから発言しようとする自分との違いを絶えず比較することが重要である。先に発言した人との内容を同一、追加、再比較、理由、追求等の視点で常に意識させ、集団を意識した発言形式を指導する。交流は集団思考の一形態である。このことを踏まえ、交流活動の活性化を図る視点として、次の3点を挙げる。

- ・交流活動を活性化するための話し合いの約束等が確立しているか。
- ・交流活動を活性化するための話し合いの準備が十分になされているか。
- ・交流活動を活性化するために、話し合いの形態が工夫されているか。

## 話し合い（交流）の話形ヒント

### 基本的な発言形式

・わたしは〇〇と思います。それは〇〇だからです。

### 人への質問の仕方

・わたしは〇〇と思いますが、みなさんはどうですか。

・〇〇さんの考え方を聞かせて下さい。

・どうってどういう意味ですか。どうして～なのですか。

### 感想

・～は、わたしと同じ考えです。あなたは～ですか。

・～という考えは良い考えです。

・〇〇さんの考えを聞いて、わたしも～と思うようになりました。

・～についてわたしの考えは〇〇さんとはちがいます。わたしは～だと  
思います。

・～についてわたしはこう思うんだけど、あなたは～

・～という考えもつけくわえた方がいいと思いますが、

・～のころは、～という表現の方がいいと思いますが、

・考えのよさを気づけるとき

・〇〇さんの考えは、～というところがよく分かりました。

・〇〇さんは、みんなによく分かるようにくわしくしていました。

・例えば～二つあります。（考えがいくつあるかを示している）

・はじめに、次に、最後に…（順序よくまとめている）

・その他 声の大きさ、間の取り方、表情、みづり手ぶりなど

・～



### 話をもちあげるための キーワード



- ①それはなぜ～と～して
- ②例えば～という～に～他に～もあるの？
- ③へえ、なるほど、いい考えたね！
- ④そうだね、わたしもそう思うよ！
- ⑤あなたは～と思う？
- ⑥そこは大切だね！
- ⑦たぶん、もしかしたら、ひょっとすると～
- ⑧でもね、それに、だっつら～と～
- ⑨どうしてだろうね

- ・…どんどん質問する
- ・…具体的に質問する
- ・…感心する
- ・…同意する
- ・…相手に聞き返す
- ・…中心をつかむ
- ・…想像する
- ・…話をつなげる
- ・…いっしょに考える

## 資料２ 「交流」の話形ヒント

## Ⅳ 授業の実践

### 1 検証授業の実際

| 時 | 月日       | 校時    | 検証項目                                                                                                                       | 検証方法                                      |
|---|----------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1 | 1月11日(水) | 3校時   | ①学級新聞の記事を推敲することで文章を書く際の基礎基本が定着・活用でき、分かりやすい表現法を身につけることができるであろう。<br>②交流を取り入れることで、自分の思いや考えが整理され、伝え合うことができ意欲や自信を高めることができるであろう。 | ・記事<br>・ワークシート<br>・観察<br>・付箋紙<br>・ICレコーダー |
| 2 | 1月12日(木) | 2校時   |                                                                                                                            |                                           |
| 3 | 1月13日(金) | 1・2校時 |                                                                                                                            |                                           |
| 4 | 1月16日(月) | 3・4校時 |                                                                                                                            |                                           |
| 5 | 1月18日(水) | 2校時   |                                                                                                                            |                                           |
| 6 | 1月20日(金) | 4校時   |                                                                                                                            |                                           |
| 7 | 1月24日(火) | 2校時   |                                                                                                                            |                                           |
| 8 | 1月31日(火) | 3校時   |                                                                                                                            |                                           |
| 9 | 2月2日(木)  | 2校時   |                                                                                                                            |                                           |

### 2 検証授業本時の指導

(1) 単元名 取材したことをもとに学級新聞を作ろう  
「みんなで新聞を作ろう」

#### (2) 単元設定の理由

- ①教材観 省略
- ②児童観 省略
- ③指導観

この教材の重点指導事項は、B 書く(1)イ「文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」ウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」である。

指導事項書く(1)イウ以外にも「みんなで学級新聞を作ろう」は4年生で身につくべき「書くこと」指導事項が網羅されている。学級新聞作りという言語活動を通して相手意識や目的意識を持ち、意欲的に学習を進めるためにも、誰に何を伝えたいのか、意識させ書く意欲を持たせることが大切である。

これまで児童は「わたしが選んだ今週のニュース」(4年上)で「いつ、どこで、だれが、どうした」の出来事を正確に伝える書き方を学習している。また、直前の「話すこと・聞くこと」教材「みんなで話し合って」においては、話し合いの進め方や司会の役割について学んでいる。それを踏まえて本教材では①大事なことを落とさないように書く②事実を正確に書く③事実と自分の考えを区別して書く④事柄のまとまりを意識して段落を構成して書く⑤伝えたいことをより分かりやすくするために、記事の内容に合った写真や図などの資料を取り入れる等の書く工夫について学んでいく。また、ここでは、書くこと的能力を育てると共に学習指導要領に新設された指導事項(1)書くオ「書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと」という交流との関連も図りながら一人一人が自分の思いや考えを論理的に表現する能力が身につくことを目指していく。

したがって、本単元の指導に当たっては、「書く基本事項」をしっかりとおさえながら読み手の興味をひく分かりやすい新聞を友達と「交流」を通して完成させ、「自分の思いや考えを論理的に表現できる子」に育てることを目指し、次のような手立てをしていく。

| ねらい                          | 手立て                                                                                                                                         |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新聞の意義に気づかせる。                 | 新聞の大型見本を掲示することにより、形式・特徴を知り、新聞の良さや工夫に気づく。                                                                                                    |
| 話し合い(交流)をすることで、相手意識・目的意識を持つ。 | 話し合い(交流)の型(ヒントカード)を出し、論理的に自分の意見や考えが述べられるようにする。                                                                                              |
| 様々な方法で取材し、必要な情報を集める。         | 必要に応じてデジタルカメラやICレコーダー等を活用させながら写真や資料作りをし、効果的な記事になるようにする。                                                                                     |
| 分かりやすい記事を書く。                 | 取材の整理、記事を書くときの注意点を示す。                                                                                                                       |
| 推敲し、正確な文章を書く。                | 文の基本的な書き方や間違いやすい点を指摘しながら、推敲を進める。推敲の方法を示す。                                                                                                   |
| グループで交流し、書き手の表現のよさを見つける。     | 交流する上での方法を示す。<br>書き手の良いところは黄色の付箋紙、間違った字や分かりにくい文は青色の付箋紙に書いて分かりやすく相手に伝えるようにする。                                                                |
| 全体で感想や意見を伝え合う(交流)。           | 書き手には読み手に対し、どんな工夫をしたか、何を伝えたかったのかについて発表させる。<br>読み手には伝えたいことが分かりやすく書けているか、興味をひきつける書き方、見出しや写真・図などの工夫がされているか、読みやすい割り付けをしているか等の観点を評価表にして感想を発表させる。 |

### (3)単元の指導目標(観点別評価規準)

#### ①単元の目標

- 取材したことを整理して、分かりやすい記事を書く。(書くこと アイウエオカ)
- 読み手の興味をひく書き方を工夫する。

#### ②観点別評価規準

|              |                                              |
|--------------|----------------------------------------------|
| 国語への関心・意欲・態度 | ○調べたことを新聞の形で伝えることに興味を持ち、新聞作りに意欲的に取り組もうとしている。 |
|--------------|----------------------------------------------|



|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 書く能力 | <p>○さまざまな方法で取材し、新聞の記事に書く事柄を集めている。</p> <p>◎新聞の形式を知り、全体のレイアウトや見出しの立て方について考えている。</p> <p>◎出来事を伝えるためにだいたいなことを落とさずに書いたり、分かりやすくなるよう資料を取り入れたりしている。</p> <p>○メモと記事の文章の違いを理解し、常体と敬体を区別して書いている。</p> <p>○グループで下書きを読み合い、よりよい表現になるよう助言したり修正したりしている。</p> <p>○新聞を読み合い、表現の工夫などについて感想を伝え合っている。</p> |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### (4) 指導計画と評価計画

| 次                                            | 時             | 学習活動                                    | ねらい<br>(評価規準・方法)                                                         | A 十分満足できる                                       | C 努力を<br>要する<br>(手立て)                  |
|----------------------------------------------|---------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------|
| (日常の鍛え) ・バリエーション日記指導 ・日記の紹介 ・新聞記事収集 ・スピーチ など |               |                                         |                                                                          |                                                 |                                        |
| 一次                                           | 1             | ○新聞の形式や特徴を知り、書き方の工夫に気づく。                | ・新聞の形式や特徴を知り、新聞を書くときの工夫に気づいている。<br>【関】<br>発言、ワークシート                      | ・新聞の形式や特徴を知っており、新聞を書くときの工夫を言うことができる。            | ・新聞の形式・特徴について説明したモデル図を提示し、興味や関心を高めさせる。 |
|                                              | 2             | ○学習活動の流れを知り、全体の学習計画を立てる。                | ・活動に見通しを持ち、新聞作りに取り組もうとしている。【関】 発言、観察、ワークシート                              | ・板書と教科書の学習過程を結びつけながら把握し、新聞作りに取り組もうとしている。        | 学習過程を常に見るよう声かけする<br>(教室用掲示資料)          |
| 二次                                           | 3<br>4        | ○新聞作りの計画を立て、割り付けや記事の分担を考える。             | ・書きたい題材を集めたり、友達と話し合っどどのような割り付けにするかを決めたりしている。【書】<br>発言、観察、ワークシート          | ・書きたい題材を集めたり、友達と話し合っどどのような割り付けにするかを決めたりしている。    | ・題材集めができなかったら例を挙げる。集めた題材をメモしておく。       |
|                                              | 5<br>6        | ○さまざまな方法で取材し、必要な情報を集める。                 | ・新聞の記事に書く事柄を集めている。<br>【書】 観察、ワークシート                                      | ・自分で取材し、新聞の記事に書く事柄を集めている                        | ・取材メモに質問事項や項目を書き出させておく。                |
|                                              | 7<br>8        | ○取材して分かったことを整理し、下書きを書く。                 | 出来事を伝えるために下書きを書く。<br>【書】 下書き、ワークシート                                      | ・出来事を伝えるために大事なことを落とさずに下書きを書いている。                | ・5W1Hの文型を使ったモデルを示しながら下書きを書かせる。         |
|                                              | 9<br>本時<br>10 | ○下書きをグループで読み合っど推敲し、分かりやすい記事を書き新聞を完成させる。 | ・グループで下書きを読み合い、より良い表現になるように助言しようとする。下書きを推敲して清書する<br>【書】 観察、新聞、ワークシート、付箋紙 | グループで下書きを読み合い、よりよい表現になるように助言している。下書きを推敲して清書できる。 | ・推敲でどのように改善するか、友達や教師と話し合いながら書き込ませる。    |

|        |          |                                 |                                                                                |                                                                    |                                                                                         |
|--------|----------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 三<br>次 | 11<br>12 | ○作った新聞を読み<br>合い、感想や意見を<br>伝え合う。 | ・新聞を読み合って、友達<br>の新聞のよいところや表現<br>の工夫について伝え合っ<br>ている。<br>【書】発言、観察、ワーク<br>シート、付箋紙 | ・新聞を読み合って、<br>友達の新聞のよいところ<br>や表現の工夫について付<br>箋紙に書き、積極的に伝<br>え合っている。 | ・自分たちの作<br>った新聞のよ<br>かった点、反省<br>点などを分か<br>りやすく伝え<br>られるよう理<br>由を挙げて発<br>表できるよう<br>助言する。 |
|--------|----------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|

## (5) 本時の学習（9/12時）

### ① 本時のねらい

下書きをグループで読み合って推敲し、わかりやすい記事を書くことができる。【書くこと】

### ② 授業の仮説

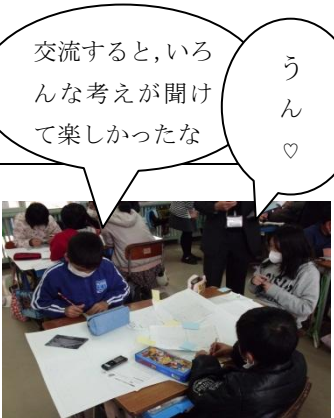
ア 学級新聞の記事を推敲することで文章を書く際の基礎基本が定着・活用でき、分かりやすい表現法を身に付けることができるであろう。

イ 交流を取り入れることで、自分の思いや考えが整理され、伝え合うことができ意欲や自信を高めることができるであろう。

### ③ 準備：ワークシート掲示物、ビデオ、ICレコーダー、付箋紙、新聞用紙、水性マジック

### ④ 本時の展開

| 段<br>階 | 学習活動・内容                                                                                                                                                                                                         | ○教師の支援・留意点<br>★ワークシート                                                                                                                                                                                                                                                          | ■授業仮説の検証<br>◇本時の評価（評価方法）                                                                                                                                                                               |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導<br>入 | ○今日のめあての確認。<br><br>下書きをグループで読み、よりよい記事になるように意見を伝え合おう。                                                                                                                                                            | ○相手意識・目的意識を持たせる。<br><br>★推敲のための観点を示す。<br>（記事推敲チェックカード）                                                                                                                                     | 誰もが読んで分かり<br>やすい新聞にしよう<br>ね！<br><br>■授業仮説①                                                                                                                                                             |
| 展<br>開 | ②自分の記事の見直しをする。<br>③グループで下書きを読み合いよりよい文章になるように話し合う。<br>・友達の書き方のよいところ(伝えたいことが明確か、読み手に分かりやすい言葉や表現を使っているか、間違った字や分かりにくい文はないか、文末表現は適切かなど)<br>・良い点は黄色い付箋紙、訂正やアドバイスは青い付箋紙にメモし、記事に貼っていく。<br><br>文章はOK!!!<br>ここにイラストを入れたら？ | ○下書きを微音読させ、推敲する観点に沿って見直しをしてワークシートにチェックをさせる。<br>★交流の話形ヒントも思い出させる。<br>（ヒントカード）<br>○文章を微音読させ、ワークシートにチェックさせる。<br>○全員が読めるよう、順序に従って記事を読むようにさせる。<br>○交流の様子をビデオに撮り、模範グループの映像を流し参考とする。<br><br>それナイス！ | 文の基本的な書き方を確認することによって分かりやすい記事に書き直すことができる。<br>（記事、ワークシート）<br>■授業仮説②<br>交流を取り入れることで自分の思いや考えが整理され、伝え合うことができ意欲や自信を高めることができる。<br>（観察、記事、ワークシート）<br>◇グループでの対話を通して、自分の記事を見直したりよりよい表現にしたりすることができる（観察、ワークシート、記事） |

|             |                                                         |                                                                                            |                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 展<br>開      | ④友達の意見を参考にして、下書きを推敲する。                                  | ○友達の意見やメモを参考にして、改善案を下書きに書き込ませる。<br>○自分で推敲できない児童には、どのように改善するか、友達や教師と話し合いながら書き込ませるようにする。     |  |
| ま<br>と<br>め | ⑤ふり返しカードを記入し、発表する。<br>○次時は記事を清書し、新聞をグループ全員で完成させることを告げる。 | ○主に交流を通しての気づきや感想について書かせる。<br>・アドバイスにより記事がよかった<br>・友達のよい表現を見つけ、伝えることができた<br>・交流で考えがまとまった など |                                                                                     |

### 3 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、記事や児童の自己評価、ワークシート、付箋紙、ICレコーダーによる聞き取りや観察者から見た学級全体の評価を基に考察する。

表2 観察者から見た評価規準

| 観点                                         | 評価                                                    |                                                                      |                                                          | 評価方法                                             | 検証結果<br>(A・Bの合計) |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|------------------|
|                                            | A<br>十分満足できる                                          | B<br>概ね満足できる                                                         | C<br>やや努力が必要                                             |                                                  |                  |
| (1)文の基本的な書き方を確認することで、分かりやすい記事に書き直すことができたか。 | 推敲チェックリストを基に自分で書き直し、間違えない分かりやすい記事を書くことができる。<br>19%：5名 | 推敲チェックリストを基に話し合い、分かりやすい記事に書き直すことができる。<br>78%：21名                     | 推敲チェックリストを基に、教師や友達の助けを借りながら分かりやすい記事に書き直すことができる。<br>3%：1名 | ・記事<br>・記事推敲チェックリスト<br>・観察                       | 97%<br>(27名)     |
| (2)交流により自分の思いや考えを整理しながら伝え合うことができ、意欲が高まったか。 | グループ内のリーダーとして、よりよい表現になるよう助言しながら話し合いを進めている。<br>30%：8名  | どの子にも黄色付箋紙(よいところ)、青色付箋紙(感想やアドバイス)を書き、全体でよい記事になるよう話し合っている。<br>67%：18名 | 教師や友達の助けを借りながら、自分や友達の記事の間違いやよさを見つけ、伝えることができる。<br>3%：1名   | ・記入した付箋紙<br>・評価カード<br>・ICレコーダー<br>・観察<br>・ワークシート | 97%<br>(27名)     |

#### (1)授業仮説①について

推敲のための手立てとして、「記事推敲チェックカード」を作成し、活用させた(資料4)。誤字・脱字はないか、句読点の付け方が出来ているか等の作文のきまり編と、割り付けはこれでいいか、写真・イラスト等の資料が効果的かどうか等の表現の工夫編の二つについてグループの仲間同士で推敲した。一人では「これで大丈夫」と言っていた児童も、友達に批判されることで、自分の記事の間違いに気付き、直すことができた(資料3-1, 3-2を参照)。また表2の観察者から見た評価によると、自分で間違いない分かりやすい記事に書き直せた児童が5名(19%)、話し合いにより分かりやすい記事に書き直せた児童が21名(78%)と、A・B評価が97%を示した。このように、文の基本的な書き方を丁寧に示し、お互いで確認し合うことで、殆どの児童が自分で分かりやすい記事に書き直すことができた。

|     |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| した。 | ソて思っ | ぼくは、 | でした。 | たぼくで | ふみえ先 | ているか | さいきん | がする人 | る学月 | けが言 |
|     | ていたけ | は、い  | 3番は、 | たぼくで | 先生に  | からけ  | ん、け  | 人が大  | 其月、 | 言べ  |
|     | れど、だ | は、い  | すりき  | 2番は、 | 聞い   | 言べ   | かを   | かつた。 | はん  |     |
|     | ぼくで  | すりき  | ずで   | ちりき  | てみる  | にし   | する人  |      | がで  |     |
|     |      | ずが   | した。  | きず   | とー番  | まし   | がふ   |      | せり  |     |
|     |      | 大    |      | ず    | は    | た。   | え    |      | きず  |     |
|     |      |      |      |      |      |      |      |      | で   |     |
|     |      |      |      |      |      |      |      |      | け   |     |

資料3—1 記事の下書き

変容

|      |      |     |      |      |     |     |     |     |     |
|------|------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 注意しま | みなさん | 番目は | た。二番 | ました。 | まけん | をし  | がする | 最近、 | けがに |
| し    | けがを  | はすり | 目は   | 一番に  | のふ  | した。 | 人   | はん  | 注意  |
| し    | し    | きず  | は    | タリ   | みえ  | 。   | が   | 画   | い   |
| し    | し    | で   | き    | け    | 先生  |     | タ   | で、  |     |
| し    | し    | した。 | ず    | は、   | に   |     | リ   | セ   |     |
| し    | し    |     | で    | 打    | 聞   |     | き   | リ   |     |
| し    | し    |     | した。  | ぼく   | い   |     | ず   | き   |     |
| し    | し    |     | 三    | で    | て   |     | の   | ず   |     |
| し    | し    |     |      | し    | み   |     | け   | の   |     |
| し    | し    |     |      | し    | み   |     | 言   | け   |     |
| し    | し    |     |      | し    | み   |     | 周   | べ   |     |
| し    | し    |     |      | し    | み   |     | べ   |     |     |

資料3—2 推敲後の記事

## 記事すいこうチェックリスト

名前( )



よりよい  
新聞作りの  
ために

添文章を見直すときは、小さい声を出して読んでみよう。

添できていたら○、できていなければ文章を直して○をつけよう。

| ☆作文のきまりへん                                  | チェック<br>らん (○) |
|--------------------------------------------|----------------|
| ①文字のまちがいはないかな。                             |                |
| ②文字のぬけているところはないかな。                         |                |
| ③、(点)や、(丸)の打ち方はあっているかな。                    |                |
| ④習った漢字を使っているかな。                            |                |
| ⑤文の最後は「です。ます。」「～である。～だ。」になっているかな。          |                |
| ⑥かぎカッコ「 」(会話文)の使い方はあっているかな。                |                |
| ⑦だん落の始めは、行をかえて一マス空けているかな。                  |                |
| ☆表現のくふうへん                                  |                |
| ①伝えたいことに合わせて、記事の分量やおき場所を<br>考えているかな(わり付け)。 |                |
| ②出来事の大事なことを落とさないように書いているかな。                |                |
| ③出来事と自分の考えは分けて書いているかな。                     |                |
| ④数や名前などを正しく書いているかな。                        |                |
| ⑤見出し・5W1Hはこれでいいかな(色・字体・言葉)。                |                |
| ⑥写真・イラスト・グラフ・図などが、こまかく使われているかな。            |                |

※よい表現や言葉があれば、黄色いふせん紙に書いてわたしてあげよう。  
※まちがいがアドバイスは、青いふせん紙に書いてわたしてあげよう。



資料4 推敲のワークシート

## (2) 授業仮説②について

表2から「交流により、自分の思いや考えを整理しながら伝え合うことができ、意欲が高まったか」について見てみると、26名(97%)の児童が多くの付箋紙を書き、全体でよい記事になるよう話し合っていた。話し合いの様子をICレコーダーに録音し、児童の言葉を拾っていくと、始めは戸惑ったり、恥ずかしがっていた子も、模範グループのビデオ映像を見たりグループの仲間がどんどん質問やアドバイスをしたりするうち、次第に言葉を発するようになってきた。友達に言われて自分の記事がどんどんよくなることの満足感、友達と考えが似ていることの嬉しさ、友達の面白い考えやよい意見に触れることへの喜び等、対話を楽しむ様子が教室に広がった。また、「分かりやすい記事だった。」「大きな見出しがいい。」など、相手のよさを見つけようという思いやりの心も育むことができ、技能面だけでなく、心情面も学級全体で育っていく過程が見られた。

## V 研究の結果と考察

### 1 「書くこと」の学習指導をはじめ学級新聞作りを通して、自分の思いや考えを論理的に表現することができたか

#### (1) 日常の鍛え①(バラエティー日記から)

まず、資料6を取り入れることで、出来事と考えを分けて書く(段落分け)意識が付いてきた。他にも書く題材のヒントとして「日記の題一覧」を配布し題を付けさせたり、書き方の見本を教室掲示したりすることで、児童は「こんなことも書く材料になる」「こんなことも書いていい」というように書く材料集めが出来るようになった。資料5—1, 5—2の児童の日記の変容から、書くことを自由に楽しむようになり、意欲的に取り組みながら表現豊かになっていく様子がよく分かる。

このことから、バラエティー日記を取り入れた指導の工夫は、「書く表現」の定着・活用につながり、自分の思いや考えを論理的に伝える学習指導方法として有効であると言える。

ぼくの運動会のめあては「みんなの力を合わせてゴールゴー」です。

なぜこのめあてにしたかというと、ぼくは、バトンをさがにがで力を合わせられなかったから、今年の運動会は、力を合わせていきたいな! と思ってこのめあてを書きました。

今年の運動会も、力を合わせて、勝ちたいです。

資料5 - 1 Aさんの日記(10月)

[illegible]

資料6 「書くこと」表現スキルワークシート

一月十七日(火)  
『世界はひろけた。』  
一月十七日火曜日、二トリでお母さんが、家の電気を買い、ました。  
なぜかという、ぼんたちの家のソビエツの電気が暗いからです。  
電気を交えると、びっくりしました。その時、お姉ちゃんも、  
「世界がひろけた」  
と言いました。そして笑っていました。  
ぼくは、明るかったのだから、と思いました。

資料5 - 2 Aさんの日記(1月)

(2) 日常の鍛え②(新聞記事収集から)

家庭への協力を得ながら新聞記事のスクラップを宿題とした。記事の正しい読み取りのために、「いつ、どこで、だれが、どうした」を抜き出させ、この記事を選んだ理由を記入させた。分かりやすい表現のための工夫に気付かせる最適な教材でもある。教室にも「新聞コーナー」を設置し、身近に新聞を手にする環境を整えた。**資料 7～9**は、教室に設置したコーナーや新聞に関する掲示物である。

新聞を読むのは初めてという子も多かったが、毎日継続することで身の周りに関心を持ち始めるきっかけにもなり、「みんなで学級新聞を作ろう」の授業をスムーズに進めることができた。特に記事集めの時間で、殆どの児童があまり迷わず題材を探すことができたという実態から、記事収集や学習環境の整備が書くこと表現の基礎・基本を定着させる上で効果的であったことが実証された。



資料 7 新聞記事収集ワークシート



資料 8 新聞の工夫を見つけよう



資料9 新聞コーナー



### (3) アンケートの結果から

図2は、「文を書くことは楽しいですか」の問いに児童が答えた結果である。事前で「とても楽しい」「楽しい」と答えた児童は、12名(44%)で、5割に満たなかったが、事後は18名(67%)の児童が文を書くことは「とても楽しい」「楽しい」と答えている。

事前で「何を書いたらいいのかわからない」と困っていた児童に、題材を見つける視点を与えたり、文章を分かりやすくするための注意点や工夫を示したりしながら書かせることで、相手に自分の気持ちが伝わる満足感を味わうことができたようである。分かる喜びは、事後の感想からも感じることができ、書くことが分からず困っていた児童が「浮かんだものがすぐ書けるから好き」「好きなことが書けるから」「完成したら嬉しいから好きになった」など事前に比べかなり変容があり、書く能力の向上が見られ、論理的な表現につながったことが実証できた。

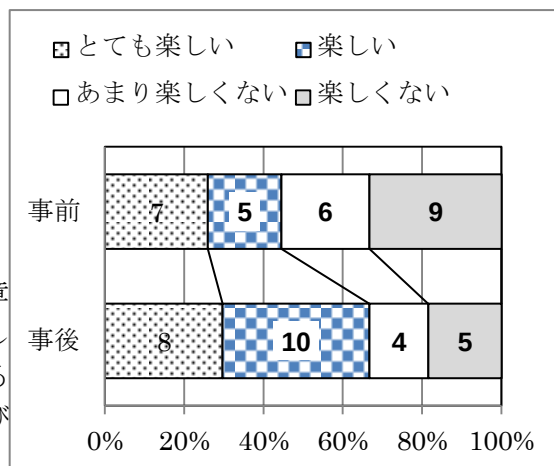


図2 文を書くことは楽しいですか？  
(27名)

## 2 「交流」を取り入れることで、自分の思いや考えをうまく伝え意欲や自信をつけさせることができたかについて

### (1) 日常の鍛え(スピーチタイム)から

発表することが苦手な児童に自信をつけさせることを意図として、スピーチタイムを行った。人前では緊張しうまく話せない児童が多い学級の実態を考慮し、「バラエティー日記」を読んでもよいことにして、不安を取り除くようにした。発表後、聞き手には質問をさせ「話すこと」「聞くこと」に慣れさせ話し合いの基礎を築いていった。後半は、話し手に対しよいところや質問、アドバイスを付箋紙に書き、目に見て分かるよう伝えた。「話すこと」「聞くこと」のスキルを継続して行うことで、話し手は自分の思いや考えに自信を持ちながら発表するようになり、聞き手も話題に関心を持ちながら活発な感想を述べるができるようになってきた。系統性を持って継続したスピーチの工夫は、自分の思いや考えをうまく伝える機会となり、意欲や自信をつけさせるのに効果的な指導であると言える。

### (2) アンケートの結果から

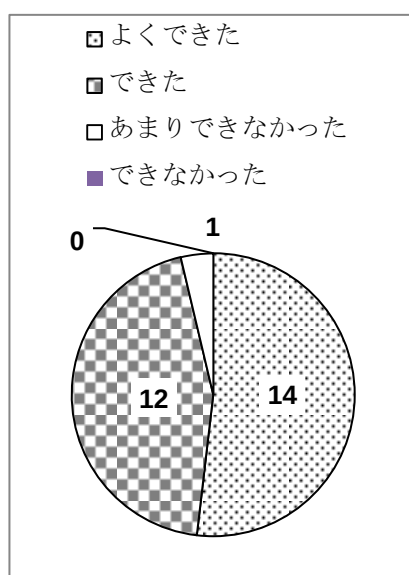


図3 進んで交流できたか

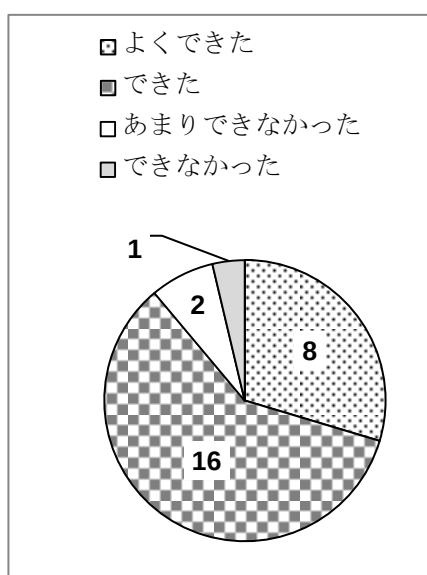


図4 友達にアドバイスなど伝えられたか

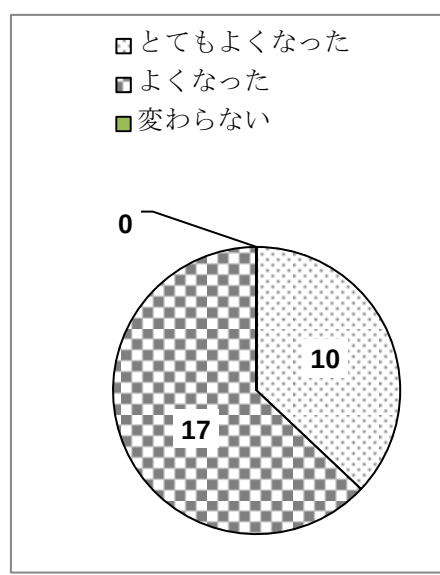


図5 交流で文がよくなったか

学習終了後、交流がうまく進んだかどうかについて児童にアンケートを実施した。図3は、「グ

ループの仲間と進んで交流ができたか」の問いに対して児童が答えた結果である。「よくできた」「できた」と答えた児童は 26 名(97%)で、学級の大多数が交流のねらいを理解しながら学習をスムーズに進めていくことができたと言える。また図 4「友達によかったところやアドバイスなどを伝えてあげることができたか」の問いには、24 名(91%)の児童が「よくできた」「できた」と自分の思いや考えを伝えることができたと振り返ることができた。話し合いの時間を十分に確保することで、自分なりの考えや意見を持って発言する事への抵抗が少なくなってきたのではないかと考える。図 5 は、「交流をすることによって、文章は前に比べてよくなったか」という問いで、全員 27 名(100%)が「とてもよくなった」「よくなった」と答えた。交流が充実した時間であったことがよく分かる。交流により、友達と批判や意見などを交わすことにより、文章がどんどん分かりやすくなっていく過程を体験でき、児童は意欲や自信を持ちながら学習を進めていた。

### (3) 児童の感想から

「交流」を多く取り入れた授業展開は、特にこれまで国語科の授業に消極的だった子に変容が多く見られた。例えばこれまであまり発言しなかった H さんが、交流を「とても楽しい。みんなの前で発表はいやだけど、グループの交流ならできた。」と人前で話すことへの抵抗感が和らぎ、自分の思いや考えが持てた。文を書くのを苦手としていた M さんが、友達への批判やよさについて意見を交わす交流に参加しているうち分かりやすく書けるようになった自分に満足し、進んで文を書こうとする態度へと成長した。また殆どの子が話を聞きながら付箋紙にメモすることで、積極的に聞く態度や書く内容に変容が見られた等である。交流活動が、「書くこと」「話すこと・書くこと」の各領域を関連させながら相乗的に力を高める学習活動として有効であると実感した。また「みんながちゃんと教えてくれてやりやすかった。」という K さんの声は、これまでの私自身の国語科授業の在り方に反省と示唆を与えてくれた。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1)「書くこと」の学習指導や学級新聞作りによる「書く表現」スキルの指導実践は、書く能力の向上をはじめ論理的な表現を育むのに有効であった。(V-1)
- (2)「交流」を取り入れることで、自分の思いや考えを論理的に伝えることができ、自信や意欲につながった。(V-2)

### 2 今後の課題

- (1)「書く」題材が探せない児童への支援の工夫。(V-1)
- (2)「交流」の際の効果的な教師の発問と、児童の意見のまとめ方。(V-2)
- (3) 論理的思考力を育成するための、継続的・系統的な指導の工夫。(V-1, 2)

## 〈主な参考文献〉

|          |                         |        |        |
|----------|-------------------------|--------|--------|
| 文部科学省    | 『小学校学習指導要領解説 国語編』       | 東洋館出版社 | 2008 年 |
| 沖縄県教育委員会 | 『「確かな学力向上」支援プラン』        |        | 2010 年 |
| 福嶋隆史著    | 『論理的思考力を鍛える超シンプルトレーニング』 | 明治図書   | 2011 年 |
|          | 『小学校 国語教育相談室 NO.75』     | 光村図書   | 2012 年 |
| 森川正樹     | 『クラス全員が喜んで書く日記指導』       | 明治図書   | 2011 年 |